

海老名市防災のしおり

「海老名市防災のしおり」は、防災のための施設等のマップや災害時の心得、備えなど市民の皆さんに知っておいていただきたい情報等を掲載しています。災害はいつ襲ってくるかわかりません。被害を最小限にとどめるためには、日頃からの備えが非常に大切となります。家族で最寄りの避難場所の確認や防災対策に活用してください。

わが家の防災メモ（震災時・風水害時の主な連絡先）

最寄りの避難場所

| | | |
|---------|---|---|
| 広域避難場所 | — | — |
| 避難所 | — | — |
| 一時避難場所 | — | — |
| 家族の集合場所 | — | — |

家族などの連絡先

| | | |
|--|---|---|
| | — | — |
| | — | — |
| | — | — |

- 海老名市役所…………… 046-231-2111
- 海老名警察署…………… 046-232-0110
- 海老名市消防署（本署）…………… 046-231-0355
- （北分署）…………… 046-231-5510
- （南分署）…………… 046-238-0181



災害時の声の伝言板 171 災害用伝言ダイヤル

災害時には電話が混雑し、家族と連絡がとれない方が多くいます。そんなときには「171」をダイヤルし、利用案内に従って伝言の録音・再生をおこなってください。利用の開始や録音件数（最大10件）など、利用条件についてはNTTが決定し、テレビ・ラジオなどを通じてお知らせします。

録音方法
171→1→046→自宅の電話番号
案内放送が流れます。市外局番が必要です。

再生方法
171→2→046→自宅の電話番号
案内放送が流れます。市外局番が必要です。

※災害用伝言ダイヤルは、一般電話の他に公衆電話、携帯電話、PHSからも利用できます。

災害用伝言板への安否情報登録および確認方法

登録方法

1. Menu画面に表示される「災害用伝言板」を選択
2. 「登録」を選択
3. 「無事です」等の状態の選択と100字以内のコメントを入力
4. 「登録」を押して完了

確認方法

1. Menu画面に表示される「災害用伝言板」を選択
2. 「確認」を選択
3. 安否を確認したい人の携帯電話番号を入力
4. 「検索」を押して伝言を確認

※ PHSやパソコン等からも伝言が確認（災害時のみ）できます。 ※ 詳しくは、携帯電話会社にお問い合わせ下さい。



東海地震に関する情報

東海地震は、大規模地震対策特別措置法に基づき、予知のための観測が24時間体制で実施されており、観測データにより気象庁から危険度に合わせて3段階の「東海地震に関する情報」が発表されます。

すべての情報は、県や市の広報、テレビ・ラジオ等を通じて市民の方に伝えられます。

小

情報名

主な防災対策

東海地震観測情報

観測された現象が東海地震の前兆現象であると直ちに判断できない場合や、前兆現象とは関係がないことがわかった場合に発表されます。

- 国や県・海老名市では情報収集連絡体制がとられます。

市民の方は、テレビ・ラジオ等の情報に注意し、平常通りお過ごしください。



防災準備行動開始

危険度

東海地震注意情報

観測された現象が前兆現象である可能性が高まった場合に発表されます。

- 市では、「注意情報対策部」を設置します。
- 児童・生徒等の帰宅等の安全確保対策が行われます。
- 自衛隊や消防機関等の派遣等の準備が行われます。



市民の方は、テレビ・ラジオ等の情報に注意し、政府や県、市などからの呼び掛けや、海老名市の防災計画に従って行動してください。

東海地震予知情報 (警戒宣言発令)

東海地震の発生のおそれがあると判断した場合に発表されます。

- 市では、「地震災害警戒本部」が設置されます。
- がけ崩れなどの危険地域からの住民避難や交通規制などの対策が実施されます。

市民の方は、テレビ・ラジオ等の情報に注意し、東海地震の発生に十分警戒して、「警戒宣言」及び海老名市の防災計画に従って行動してください。



大

各情報発表後、東海地震発生のおそれなくなったと判断された場合は、その旨が各情報で発表されます。



地震発生時の…心得

地震発生！そのときどう行動するか

●まず身の安全の確保

家具などが倒れたり落下の危険があります。机の下などにもぐり込み、身の安全を確保しましょう。激しい揺れで動けない場合は、手近なふとんや座ぶとんで頭を保護します。



●すばやく火の始末

すぐに火が消せる場合は火の始末を。余裕がなければ無理をせずに身の安全を確保し、揺れの合間を見て火の始末をする。ガス器具やストーブの火を消し、電気器具はプラグを抜く。



●非常脱出口を確保する

地震の揺れによって建物がゆがみ、出入り口が開かなくなることがあります。ドアを開けて逃げ口を確保しておく。特に中高層住宅では注意。



●火が出たらすぐに消火を

天井に燃え移る前ならば、初期消火が可能です。「火事だ！」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め消火に努めましょう。



●外へ逃げるときはあわてずに

瓦や窓ガラスの落下の危険があるのでむやみに外へ飛び出さない。家屋の倒壊や火災の危険がある場合は、落下物に注意して避難する。



揺れがおさまったら

●火の点検と始末

ガスの元栓、ストーブ、たばこの火などを消し、アイロンやドライヤーなどの電気器具のプラグを抜き、ブレーカーを切る。

●靴を履く

部屋の中はガラスだらけ。歩き回る前に、厚手のスリッパか、靴を履きます。



●避難口の確保

ゆがみで戸が開かなくなることがあります。すぐにドアを開けて、避難口の確保を。

●情報を聞く

ラジオなどで正しい情報を得ましょう。

●余震に備える

倒れそうな家具、落ちかけた物がないか点検し、修繕できない物には近づかないようにしましょう。

地震から身を守る（避難する）

避難の心得 10箇条

- 1 避難する前に、もう一度火元を確かめ、ブレーカーも切る。
- 2 身分を証明できるものを携帯する。
- 3 ヘルメットや防災ずきんで頭を保護。
- 4 荷物は最小限のものに。
- 5 外出中の家族には連絡メモを。
- 6 避難は徒歩で。車やオートバイは厳禁。
- 7 お年寄りや子どもの手はしっかり握って。
- 8 近所の人たちと集団で、まず決められた集合場所に。
- 9 避難場所へ移動するとき、狭い道・塀ぎわ・川べりなどはさける。
- 10 避難は指定された場所へ。





風水害に対する

知識

台風

日本列島には毎年多数の台風が接近または上陸し、強風と大雨によりたびたび大きな被害にあっています。台風情報に注意して被害が出ないように備えましょう。



土砂災害

海老名市には24箇所のがけ崩れ危険予想地区と3箇所の急傾斜地崩壊危険箇所があります。これらの地域は台風や集中豪雨・地震によって大きな被害を被ることが考えられますので、地域ぐるみで十分な注意をしましょう。



集中豪雨

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は比較的困難。中小河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予想されます。がけ付近や造成地などは気象情報に十分注意し万全の対策をとるようにしましょう。



風と被害

| | |
|-------------|--------------------|
| 風速 10~15m/s | 傘がさせない。 |
| 風速 15~20m/s | 小枝が折れる。 |
| 風速 20~25m/s | 風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。 |
| 風速 25~30m/s | 樹木が根こそぎ倒れる。 |
| 風速 30m/s以上 | 屋根が飛んだり、木造住宅が壊れる。 |

台風の強さと表現

| 表現 | 最大風速 |
|--------|---------------|
| (表現なし) | 33m/s未満 |
| 強い | 33m/s~44m/s未満 |
| 非常に強い | 44m/s~54m/s未満 |
| 猛烈な | 54m/s以上 |

台風の大きさと表現

| 表現 | 風速15m/s以上の半径 |
|--------|----------------|
| (表現なし) | 500km未満 |
| 大型 | 500km以上800km未満 |
| 超大型 | 800km以上 |

洪水発生メカニズム

外水氾濫

河川の中を流れている水を「外水」といいます。

大雨によって河川の水が溢れたり、水圧に耐え切れなくなった堤防が崩れたりして、水が勢いよく流れ出します。これを「外水氾濫」といいます。

③ 水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなると堤防の一部が崩れはじめます。

① 大雨によって、川の水の量が増え、水かさ上がり始めます。



② 堤防いっぱいまで水が増えると、土でできた堤防に水の圧力がかかり始めます。



④ 堤防の崩れた場所をとって、勢いよく水が流れ出し、家に襲いかかります。



⑤ 堤防から流れ出した水は、場所によっては家を破壊・流出したり、車を浮き上がらせたりしながら広がります。



内水氾濫

河川の堤防の内側（平野・市街地側）に溜まっている水を「内水」といいます。大雨で河川の水位が上がると、市街地などで降った雨水を川に排水できなくなり、水が溢れてしまいます。これが「内水氾濫」です。

① 街などに降った雨は、水路や側溝などをとおって川に排水されます。



② 水路や側溝の能力を超えた大雨が降った場合は、溢れた雨水により浸水してしまいます。





交通機関に関する情報

警戒宣言発令時



地震防災対策強化地域 (8市11町)
 運行路線
 運行休止路線

交通規制は・・・

警戒宣言発令時

警戒宣言発令時には、交通の混乱と交通事故の発生を防止し、地域住民の円滑な避難、緊急輸送を円滑に行うため、交通規制を行います。

概ね相模川以西が通行禁止区域（車両通行が原則として禁止される地域）となり、概ね相模川以东が、通行制限区域（通行禁止区域方向への車両通行が抑制される地域）となります。

バスは・・・

警戒宣言発令時

強化地域内（平塚市、小田原市、茅ヶ崎市、秦野市、厚木市、伊勢原市、海老名市、南足柄市、寒川町、大磯町、二宮町、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町）では、運行は中止されます。

強化地域外では、それぞれの路線の実状を踏まえて可能な限り運行を継続します。

鉄道は・・・

警戒宣言発令時

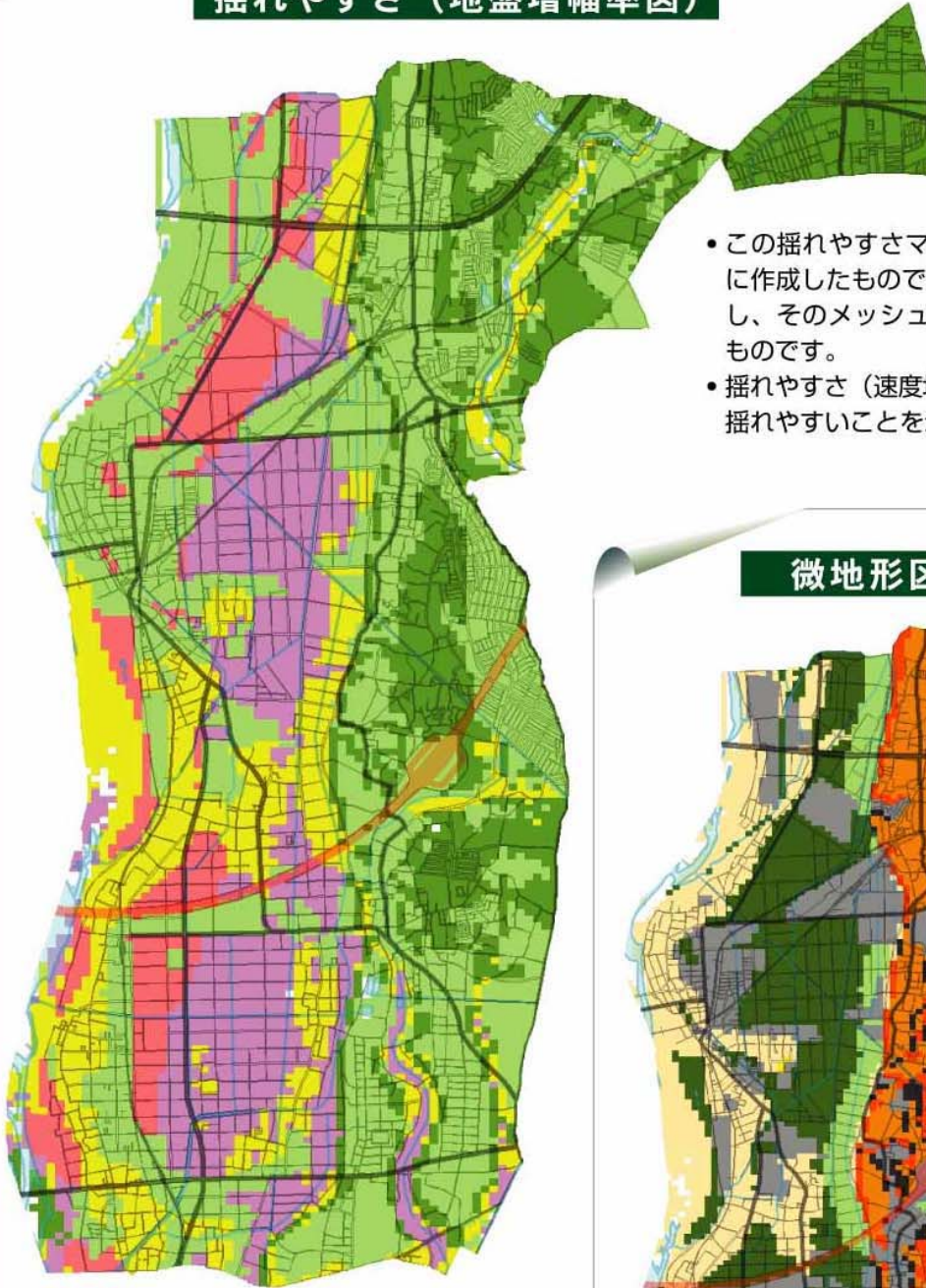
| | | | | | | | |
|--------|-----------|--------------------------|----------------------------|---------|------------------------|------|------|
| JR東日本 | 東海道線 | 東京 - 藤沢間運行 藤沢以西は運転休止 | 相模鉄道 | 本線 | 横浜 - 大和間は運行 大和以西は休止 | | |
| | 中央線 | 東京 - 高尾間運行 高尾以西は運転休止 | | いずみ野線 | 全線運行 | | |
| | 相模線 | 全線運行休止 | | 京浜急行電鉄 | 本線 | 全線運行 | |
| | 横須賀線 | 全線運行 | | | 大師線 | 全線運行 | |
| | 京浜東北線 | 全線運行 | | | 逗子線 | 全線運行 | |
| | JR東海 | 根岸線 | | 全線運行 | 東京急行電鉄 | 久里浜線 | 全線運行 |
| | | 横浜線 | | 全線運行 | | 東横線 | 全線運行 |
| | 小田急電鉄 | 南武線 | | 全線運行 | こどもの国線 | 全線運行 | |
| 鶴見線 | | 全線運行 | 田園都市線 | 全線運行 | | | |
| 新幹線 | | 全線運行休止 | 相模原線 | 全線運行 | | | |
| JR東海 | 御殿場線 | 全線運行休止 | 伊豆箱根鉄道 | 大雄山線 | 全線運行休止 | | |
| | 小田急電鉄 | 小田原線 | 新宿 - 相武台前間は運行 相武台前以西は休止 | 横浜新都市交通 | シーサイドライン | 全線運行 | |
| 江ノ島線 | | 相模大野 - 藤沢間は運行 藤沢以西は休止 | 横浜高速鉄道 | みなとみらい線 | 全線運行 | | |
| 多摩線 | | 全線運行 | 箱根登山鉄道 | 全線運行休止 | | | |
| 京王電鉄 | 相模原線 | 全線運行 | 江ノ島電鉄 | 全線運行 | | | |
| | 小田急電鉄小田原線 | 全線運行 | 湘南モノレール | 全線運行 | | | |
| 京浜急行電鉄 | 久里浜線 | 全線運行 | 横浜市営地下鉄 | 全線運行 | | | |
| | 久里浜線 | 全線運行 | | | | | |



揺れやすさマップ

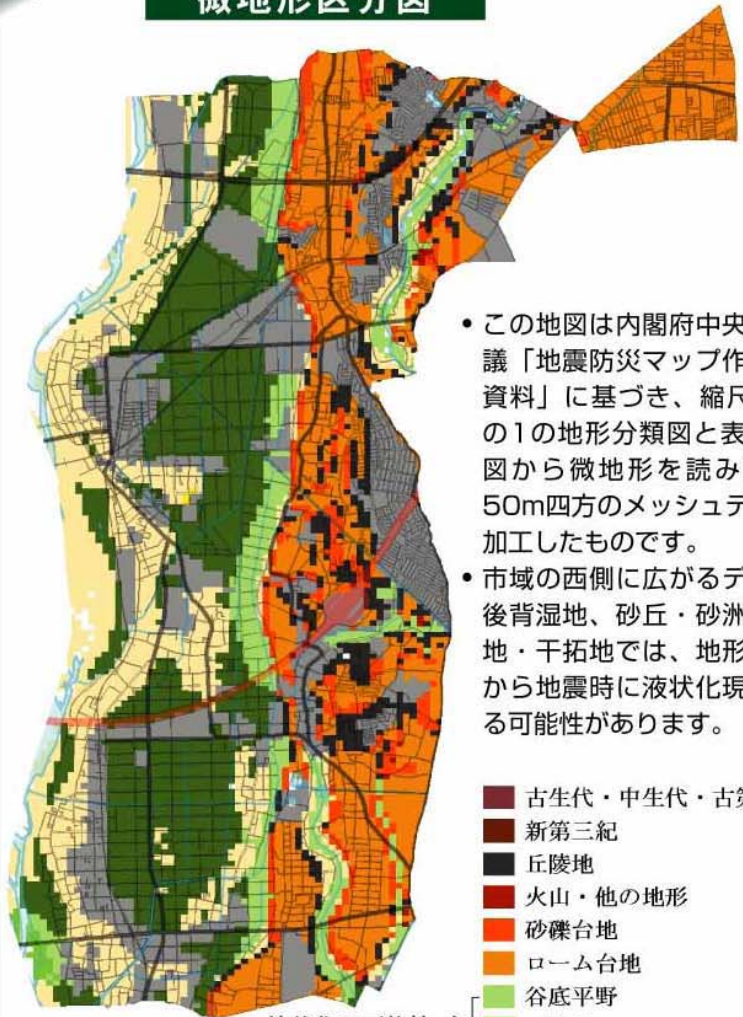
情報

揺れやすさ (地盤増幅率図)



- この揺れやすさマップは下図の「微地形区分図」を元に作成したもので、市内を50m四方のメッシュに分割し、そのメッシュ内における“揺れやすさ”を示したものです。
- 揺れやすさ (速度増幅率) の数値が大きいメッシュほど、揺れやすいことを示しています。

微地形区分図



- この地図は内閣府中央防災会議「地震防災マップ作成技術資料」に基づき、縮尺5万分の1の地形分類図と表層地質図から微地形を読み取り、50m四方のメッシュデータに加工したものです。
- 市域の西側に広がるデルタ・後背湿地、砂丘・砂洲、埋立地・干拓地では、地形的要因から地震時に液状化現象が起る可能性があります。

速度 増幅率 (揺れやすさ)

| | |
|--------------|--------------|
| ■ ≥ 0.0 | ■ ≥ 1.8 |
| ■ ≥ 1.0 | ■ ≥ 2.0 |
| ■ ≥ 1.2 | ■ ≥ 2.2 |
| ■ ≥ 1.4 | ■ ≥ 2.4 |
| ■ ≥ 1.6 | |

神奈川大学学術フロンティア研究事業
「神奈川大学 工学部 建築学科 荻本孝久教授」による

- 古生代・中生代・古第三紀
- 新第三紀
- 丘陵地
- 火山・他の地形
- 砂礫台地
- ローム台地
- 谷底平野
- 扇状地
- 自然堤防
- 埋立地・干拓地
- デルタ・後背湿地 (D \leq 0.5km)
- デルタ・後背湿地 (D $>$ 0.5km)
- 砂丘・砂洲
- 人工改変地

液状化の可能性・有

液状化の可能性・大



地震への.....

備え

災害は、いつ襲ってくるかわかりません。被害を最小限に食い止めるためには、日頃の準備が大切です。家族そろって防災会議を開き、災害から身を守る方法を話し合っておきましょう。

1. 家族一人一人の役割分担

日常の防災の役割と災害が起きたときの役割の両方を決める。



2. 非常持ち出し品のチェックと入れ替え

必要な品がそろっているかチェック。新しいものと取り替えずに。



3. 災害時の連絡方法や避難場所の確認

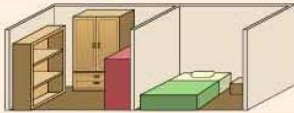
家族が離ればなれになったときの連絡方法や避難場所を確認する。できれば休日などを利用し、みんなで下見しておく。



家の中の安全対策

● 家の中に逃げ場としての安全な空間を作る

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。無理な場合は、少しでも安全なスペースが出来るよう配置換えする。



● 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



● 家屋の危険箇所チェック

家の内外をチェックして危険箇所を確認しよう。



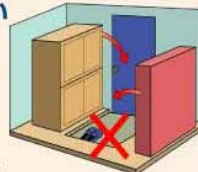
● 家具は倒れにくいように置く

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱に寄りかかるように固定する。畳の上に置く場合は、家具の下に板を置く。



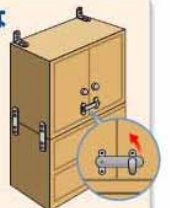
● 安全に避難できるように、出入り口や通路には物を置かない

玄関などの出入り口までの通路に、家具など倒れやすい物を置かない。また、玄関にいろいろ物を置くと、いざというときに、出入り口をふさいでしまうことも。



● 家の中に安全な空間を確保する

家具の安全な配置換えや、家具の転倒、落下を防ぐ方法を考える。



家の中の安全対策

屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



プロパンガス

ボンベを鎖でしっかり固定しておく。

ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。

非常持出品の用意のポイント

避難するとき持ち出す最小限の必需品。あまり欲張りすぎないことが大切です。

- (1) あまり重いと避難行動に支障が出るので、重すぎる場合は飲料水などの一部を家に保管するなどして減らす。
- (2) 重い缶詰のかわりに、比較的軽い乾燥食などを用意する。水を注ぐだけで簡単にできる。
- (3) できれば各自一つのリュックを用意し、それぞれ持ち出しやすい場所に保管を。玄関先や車のトランクなどにも分散して保管しておく。

非常備蓄品 ● 災害復旧までの数日間を自活するためのもの。 ● 最低でも3日分、できれば5日分を用意しましょう。

| | |
|----------------------------|---|
| 非常食 | そのまま食べられるか、簡単な調理で食べられるもの。アルファ米やレトルトのご飯、保存のきくパン（缶詰も市販されている）、缶詰やレトルトのおかず、インスタントラーメン、切りもち、チョコレート、氷砂糖、梅干し、インスタント味噌汁。 |
| 水 | 飲料水は1人1日3リットルが目安、ミネラルウォーターの保存期間はペットボトルで2年、缶詰で3～5年程度（冷暗所に置いた場合）。随時、保存期間の確認を。さらに、生活用水の確保も忘れずに。風呂の水は次にはいるまで抜かずフタをして、寝る前はいつもボットややかに水を入れておく。 |
| 生活用品 | 燃料は短期間なら卓上コンロや固形燃料で十分。ガスボンベも多めに用意を。その他、洗面具、生理用品、ビニール袋、キッチンラップ、新聞紙、ビニールシートなど。 |
| 避難生活が長引く場合があると便利なもの | なべ（コッヘル）、携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、雨具、ガムテープ、地図、さらし（包帯、おしめ、手ぬぐい、ロープ、風呂敷などにも使えて便利）、筆記用具（マジックなど）、スコップ、文庫本など。子どもがいる場合は、教科書なども。 |



風水害に対する

備え

1時間の雨量と降り方

| 1時間の雨量 | 予報用語 | 雨の降り方 |
|---------|---------|-----------------------------------|
| 10～20ミリ | やや強い雨 | ザーザーと降る。 |
| 20～30ミリ | 強い雨 | どしゃ降り。地面一面に水たまりができる。 |
| 30～50ミリ | 激しい雨 | バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。 |
| 50～80ミリ | 非常に激しい雨 | 滝のように降る。マンホールから水が噴出する。 |
| 80ミリ以上 | 猛烈な雨 | 息苦しくなるような圧迫感。水しぶきで一面が白くなり視界が悪くなる。 |

家の内外の風水害対策

屋内では

- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオの準備を。
- 避難に備えて貴重品などの非常持ち出し品の準備を。
- 台風情報を注意深く聞く。
- むやみに外出しない。



- 飲料水を確保しておく（断水などの恐れが）。
- 浸水などの恐れがあるところでは、家財道具や食料品・衣類・寝具などの生活用品を高いところへ移動。
- 病人や乳幼児、身体の不自由な人などを安全な場所へ。



屋外では

屋根

- 瓦のひび・割れ・すれ・はがれはないか。
- トタンのめくれ・はがれはないか。

外壁

- モルタルの壁に亀裂はないか。
- 板壁に腐りや浮きはないか。

ベランダ

- 鉢物など飛散の危険が高いものは室内へ。

窓ガラス

- ひび割れ、窓枠のがたつきはないか。また強風による飛来物などに備えて、外側から板でふさぐなどの処置を。

雨どい・雨戸

- 雨どいに落ち葉や土砂が詰まっていないか。継ぎ目はすれや塗装のはがれ腐りはないか。
- 雨戸にガタツキやゆるみはないか。



非常持出品

● 重さの目安は男性で15kg、女性で10kg程度。 ● 背負いやすいリュックサックにまとめておきましょう。

● 携帯ラジオ

デマにまどわされないように正しい情報を得るため。小型で軽く、FMとAMの両方聞けるものがよい。予備の電池も忘れずに。



● 非常食・水

非常食はカンパンなど火を通さなくても食べられるもの。水はミネラルウォーターなど。赤ちゃんがいる場合は粉ミルクなども。



● 生活用品

ライター（マッチ）、ナイフ、缶切り、ティッシュ、ビニール袋など。赤ちゃんがいる場合は哺乳びんなども。



● 衣類

下着、上着、手袋、靴下、ハンカチ、タオルなど。赤ちゃんがいる場合は紙おむつなども。



● 懐中電灯・ろうそく

停電時や夜間の移動に欠かせない。予備の電池も忘れずに。ろうそくは、たくて安定のよいものを。



● ヘルメット（防災ずきん）

屋根瓦や看板などの落下物から頭部を守るため。避難路は転倒事故も多いので必ず用意する。



● 救急薬品・常備薬

ばんそうこう、ガーゼ、包帯、三角巾、消毒薬、解熱剤、胃腸薬、かぜ薬、鎮痛剤、目薬、とげ抜きなど。持病のある人は常備薬も忘れずに。



● 通帳類、証書類、印鑑

預金通帳、健康保険証、免許証など。住所録のコピーもがあると便利です。

● 現金

紙幣だけでなく硬貨も用意すると便利です。

